

111 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (5)
題目：前近代漢籍の東アジア伝播：朝鮮とベトナムの使節の漢籍購入

中国文化大学 111 学年度ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座の第五回目は本学韓国語文学科の許怡齡による「前近代漢籍の東アジア伝播：朝鮮とベトナムの使節の漢籍購入」と題する講演であった。東アジア研究の領域において、学界では東北アジアにおける日中韓朝に焦点を当てることが一般的であり、東南アジア方面に注意を向けることは少ないが、本日の講演者である許先生は国内でも数少ない朝鮮とベトナムの研究で知られる著名な方である。本日の講演では、まず両国使節による漢籍購入の背景を紹介し、次にベトナム使節による購入の際の「市場購入」という特徴と朝鮮使節の購入の際の「首都限定」という特徴、それぞれを紹介し、最後に両国の根本的な差異が結論となる。

両国使節の購入経路

朝鮮、ベトナム、日本はすべて漢字文化圏の国である。漢字はこれらの国に非常に早く導入されたが、同時に漢籍も伝えられたわけではなかった。漢字に加えて東アジアでの漢籍普及は経済力などの実際的な要因にも左右された。このような漢籍普及には様々な経路があるが、許先生は、その普及経路として「特使 (外交官)」を紹介した。明清の時代での朝鮮とベトナムが使節を通じて漢籍を入手する主要経路は 3 つあった。(1) 中国からの漢籍贈与：主に「四書五経」、「性理全書」、「爲善陰鷺」等、(2) 朝貢の際の漢籍購入：①朝鮮は年 3 回 (499 回) 朝貢し、その往復所要期間は約半年、朝貢経路は東から西への移動。②ベトナムは 6 年間に朝貢 2 回 (77 回)、往復所要期間は約 2 年、朝貢経路は南から北への移動。(3) 国際貿易経路：朝鮮では国際貿易が実施されず、ベトナムは自発的な注文に加え、国際貿易のために広州から船を通過させた。

両国使節の購入特徴

まず両国の漢籍購入地は異なっていた。明の邱浚による『大學衍義』の記録では朝鮮使節の購入は朝貢経路が「少数の県と郡」のため「首都限定」であった。一方、ベトナム使節の朝貢経路は何千マイルにもわたっており、「市場購入」となった。また、この記録に拠れば明国の政府が使節に対して自由に漢籍を購入しないよう明確に命じて、特に天文学、暦法、兵法に関する漢籍購入を禁止したことも記録されている。また、清の袁枚による『隨園詩話・補遺』の記録では燕京の高麗人・琉球人・安南人などは「書店で新しい詩や小説を発見したら必ず買うだろう」と記録されている。当時、国家安全

保障上の懸念がある天文学、暦法、兵法に関する漢籍は自由に入手できなかったが、詩や小説には制限がなかった。

次に朝鮮とベトナムでは代金支払いに相違があった。朝鮮の李宜顯による『庚子燕行雜識』では使節が書店で自由に購入できなかったため、一部の翻訳者や仲介者が共謀して漢籍の価格を釣り上げたことが記録されている。一方、ベトナムの潘清簡による『大南實錄正編第二紀』に拠れば、銀で購入する以外に「シナモン、カルダモン、ツバメの巣」などのベトナム製品が「高麗人参、薬の原料、漢籍などの貴重品」と交換されていた。

両国使節の購入上の根本的差異

書籍は知識の代表であり、許先生は外国文化における知識の共有と意見交換を促進する上で書籍普及の重要性を強調し、両国使節の購入上の根本的差異について、次の3点にまとめた。つまり、(1) 購入手段が異なること。すなわち朝鮮の輸入経路は使節による購入が唯一の手段だが、ベトナムでは使節による購入と国際貿易の2種があった。(2) 購入地点が異なること。すなわち朝鮮は北京の書店（主に瑠璃廠）だけなので買いにくく、閉鎖的であったが、ベトナムは北京の書店以外にも、北京よりも南方の朝貢経路で購入する可能性が高く、比較的オープンに購入することができた。(3) 仲介者の有無が相違すること。購入の際に朝鮮使節は書店で自由に購入できず、翻訳者や特権階級の中国通などが書籍価格を釣り上げて購入させ、そのため翻訳者と使節団員との間には緊張関係があった。ベトナム使節団員の多くは中国系なので、書店で自由に購入できたのである。

（ウェブサイト：<https://eurasia.pccu.edu.tw/index.php>）

（原文：涂玉盞 日本語文学科副教授、日本語翻訳：齋藤正志 日本語文学科教授）